



物類

中



^ 12
4205
2



普日亭

長生堂

印

印

大層めいぶうくみちまを君ありし中あはれとて
 信よまうしきまうんて兄のきつうの信れまをとい
 はんくめうくのあひて信れまはけがけ今け子
 来まじうれおのせとくしとせあのお
 前馬をいれものこも流るあまうらう
 ぐくあはれうせんなんだうあはれあひ
 けうちれおがらあまうらうあはれあひ
 せごうしきまうんてあまうらうのいざと来ま
 あまうらうしきまうんてあまうらうのいざと来ま
 せごうしきまうんてあまうらうのいざと来ま

中台

つたの

印

印



らんもそこいそいもねがひえぬうちにおおしほれ
 ちよらきとりて同あふりちよせぬまら
 らごとあがりていよえぬりほつす。おれお
 ち一毎らららららあおられよを様乃
 ぞうたげさりしとさるおつ。あ乃草来もやと
 みるあもたげいんのもたがりらららあふおは
 ひらららららららららららららららららら
 りせありらららら

わけては女若殿むすめしむとさうふゆであらず成
みたりそれともさうに父母ちちうはのとも無くさうい
ぬは海うみのほとりへもあつたさうい
娘むすめも草くさのまじりあつたさうい
あまのこは海うみへさうい
荒いらいのすりかへさうい

指ゆびづきののきもさうい
たらん親おやもあつたさうい
子こもあつたさうい
出でたさうい

うらうらとさうい
風かぜ吹ふくさうい
あつたさうい
あつたさうい
あつたさうい
あつたさうい
あつたさうい

あつたさうい
あつたさうい
あつたさうい

あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは

あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは
あはれなるものぞよきとぞいふるは

らうの世に居ればはるはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に
かゝるりや松の世に居ればはるの世に居るの世に

とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に
とていふはるの世に居ればはるの世に居るの世に



比咄乃事にめぞて時くまのそとよりちよたも我も
 引つきてりてくぐりついでとて引取まを
 よしよせらふおぬぬりれぬちらぐりて七人の志れ
 多しなるくく引取てその道にたひいおとる合
 てまの首白き事これ花あは清く清く一こりき
 みるがめて花紅紫乃よはんとよと命一けく
 殺せれ限の命わらんよとてこがらんよとよと
 をおのるぬるあへぬるさりのにれ子るんげの
 りのる物にこれて母よしよちり母てこれ子
 めもゆさりておの清くおしりてこれられ

きこ抱もさちやゆこ乃たさふまも木をせ移を
いこおそ強しうてえのやり強しはたおひい
しこ山とあふえこ木らすりよらこいよお
うん坂やせこんんん
知入てこ乃琴たきこころひてうつや乃ある
あまれりこららりておまらたりてえぬ
つあふびまの藤よのあけ木るのりて
志兒あともあれて流きさりりひおまらりてこ
流りりあふびのりかめ人琴をりぬては
かりてあふびのりこ流きさりりひおまらりてこ

あふびのりこ流きさりりひおまらりてこ
まて天人のちあつこもあんとらんをた回
かりて若れ藤のりららりてあふびのり
あふびのりあふびのりあふびのりあふびのり
乃んあふびのりあふびのりあふびのりあふびのり
せあふびのりあふびのりあふびのりあふびのり
れかりてこ人住あふびのりあふびのりあふびのり
んあふびのりあふびのりあふびのりあふびのり
あふびのりあふびのりあふびのりあふびのり
かりてあふびのりあふびのりあふびのりあふびのり

事とらげさ侍しうが年ぶらうきいひのり
侍らりおのこ葛根根れわはほはくも
類んと孫がよとくみたしあはておれん
ゆあこささうらうまうていそびくし
ん新して侍しよぶらうくあん侍しうて
そん法めんともう侍しおまうそんを
こていこのきそいおせ侍しすりの
のうきいひのきそいおせ侍しすりの
知まうてまうきいひ孫がいんら侍し
りいんれ侍親のしんをまう孫がわ

くくくくくくくくくくくくくくくく
えんご父母もくくくくくくくくくく
やんごくくくくくくくくくくくくく
ひらりりりりりりりりりりりりり
らぐそくくくくくくくくくくくくく
いひひひひひひひひひひひひひひ
ぶらりりりりりりりりりりりりり
みうごいりりりりりりりりりりり
るごごごごごごごごごごごごごご
えんごくくくくくくくくくくくくく

ぼくもりちがうまをひきとさるるまの海にれ
 かまへくえくもるゆすもたゆかまの海にれ
 うりたれはむがむ海にれゆかまの海にれ
 一海にれゆかまの海にれゆかまの海にれ
 毛そ入した海にれゆかまの海にれ
 のりもあつぬる海にれゆかまの海にれ
 おちりもあつぬる海にれゆかまの海にれ
 ね海にれゆかまの海にれゆかまの海にれ
 ちれよしそあつぬる海にれゆかまの海にれ
 契方^{ちぎり}海にれゆかまの海にれゆかまの海にれ

そ神を海にれゆかまの海にれ
 と身をせし海にれゆかまの海にれ
 くそたつち海にれゆかまの海にれ
 ち乃世れ海にれゆかまの海にれ
 乃ちの海にれゆかまの海にれ
 ち乃世れ海にれゆかまの海にれ
 乃ちの海にれゆかまの海にれ
 ち乃世れ海にれゆかまの海にれ
 乃ちの海にれゆかまの海にれ
 ち乃世れ海にれゆかまの海にれ
 乃ちの海にれゆかまの海にれ

心こころよきことらんていふことありては世に人知るべし
 めししは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 うんうあはれは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 そは人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 といふは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 うれは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 おうは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 あはれは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 いはれは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし
 らんは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべしは世に人知るべし

〇〇〇〇



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, contained within a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The script is dense and fluid, with varying line thicknesses and some decorative flourishes. A faint red stamp is visible in the upper right corner of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, contained within a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The script is dense and fluid, with varying line thicknesses and some decorative flourishes. A faint red stamp is visible in the upper left corner of the page.

